



取扱説明書

THE POWERHOUSE™ TWO MANTLE LANTERN

290A740J



The Lantern.

1 燃料を入れる

⚠️ 必ず、アウトドア（屋外）の火気のない所で行ってください。

①燃料バルブを右に止まるまでまわす。



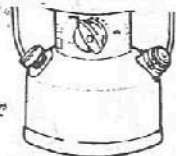
②ポンプノブを、右に止まるまでまわす。



③燃料キャップをはずす。



④ランタンを水平に置いて、注入口からあふれない位（8分目程度）に燃料を入れる。



⑤燃料キャップを、固めにしめる。

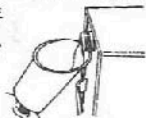
⚠️ 燃料の入れ過ぎに注意

燃料を入れ過ぎるとポンピングにより加圧するスペースがなくなり、液状のままのガソリンがバーナー部に放出され、不完全燃焼の原因になります。また、燃料が少な過ぎると炎が途切れたり、不安定な燃焼になります。

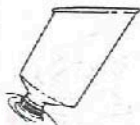
■ 燃料満タンの目安 ■

フューエルファネルを使った場合

①ランタンを水平に置いて燃料を入れる。



②フューエルファネルから、タンク内に入らなくなったなら、注入をストップ。



③ファネルを少し持ちあげると、ファネル内に残った燃料はタンク内に入り、ちょうど満タンの量になる。



ガソリンフィルターを使った場合

①ランタンを水平に置き、ガソリンフィルターは正確に押し込み燃料を入れる。



②缶から燃料が入らなくなったなら、注入をストップ。ちょうど満タンの量になる。

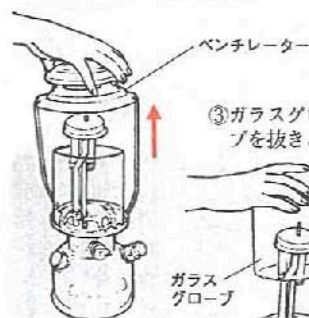
2 マントルをつける

必ず、コールマン純正マントルをご使用ください。

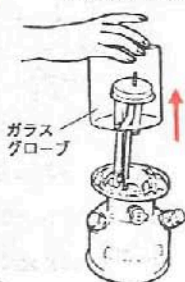
- ①ボールナットをはずす。



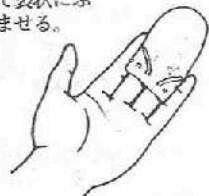
- ②ベンチレーターをはずす。



- ③ガラスグロブを抜きとる。



- ④あらかじめ、指先にて袋状にふくらませる。



- ⑤ひもを二重に仮結びする。



- ⑥ソナーチューブの先端の、正しい位置に取り付ける。



- ⑦しわが均等になるように整えて、余ったひもは切りとる。この状態で形が整っていないとカラヤキ時にこわれる恐れがあります。



- ⑧もう一方も同様に取り付け。

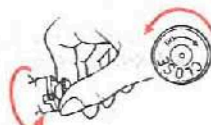
3 ポンピング

燃料タンク内に空気圧を加えます。

- ①燃料バルブを右に止まるまでまわす。



- ②ポンプノブを、左に2回転させる。

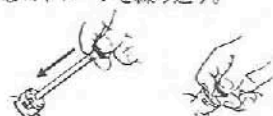


- △ 堅くて回らない時はプライヤー等で左に回してください。(特に新品購入時は堅い場合があります)

- ③親指でポンプノブの穴を押さえ、人差し指と中指を添える。



- ④手前に引いて、奥まで押しこむ正確なストロークを繰り返す。



- △ ポンピング時に引っかかり等を感じる場合はリユベリカントを注入してください。

- ⑤40～50回以上ポンピングし、固くなって指の力で入らなくなったら、ノブを押しこんで右に止まるまでまわす。



ポンピング操作上の注意

△ ポンプカップの乾燥

ポンプカップが乾燥していると、ポンピングしてもひっかかる感じがや軽すぎる感じで、空気が入らない。ポンプキャップの「OIL」と表示のある穴から、リユベリカントを2～3滴注入する。



△ 乾燥した状態で、無理にポンピングすると、ポンプカップがめくれるなど、破損の原因となる。



△ ポンピングは正確に

燃料タンクに垂直になるように正しくストロークする。力を入れ過ぎて、間違った方向に押すと、エアーステムを曲げるなど、の原因となる。



△ ポンピング時は、引き過ぎに注意

(特にイージーポンピングご使用の際は注意してください。)

ポンピングをする際、手前に引く時は8分目位の所までとし、最後まで引っ張らないこと。引っ張り過ぎるとプッシュオンナットが外れ、ポンプブランチャーが外れる場合がある。外れた場合はP. 15の組み立て方を参照してください。

4カラヤキをする

点火の前に燃やして灰状にします。

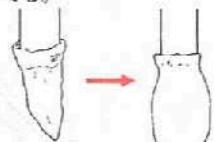
取りつけたマンテルは、点火前に燃料を出さないで燃やし、灰状にする。これをカラヤキという。

- ①取りつけたマンテルは、約7.5cmの長さ。

- ②マンテル下部から均等に火をつけて、完全に灰状になるまで燃やす。

△途中で火が消えて火をつけると穴があく場合があります。必ず最後までカラヤキしてください。

- ③カラヤキしたマンテルは、約5cmに縮んで小さくなるが、点火すると丸みを帯びた形にふくらみ、形状を保つ強度がでる。



カラヤキ後

点火後

△風の強いところで作業するとマンテルを破損する恐れがあります。

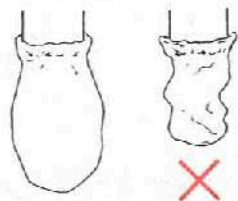
△マンテルは消耗品です。常時予備のマンテルをご用意ください。穴のあいたマンテルをそのまま使用するとグローブの破損または異常過熱の原因となります。

カラヤキ時の注意

カラヤキしたマンテルは、もろくなり強い衝撃や指先でも簡単に破損する。



カラヤキの途中やカラヤキしないで点火すると、縮みが激しく、いびつな形状で小さくなる。必ず、完全にカラヤキしてから点火する。



片寄ったカラヤキは、マンテル破損の原因になる。下部から均等に火をつける。

5点火

- ①燃料バルブを左に少しまわしシューという音から燃料の出るジッジッという音に変わるまで待つ。

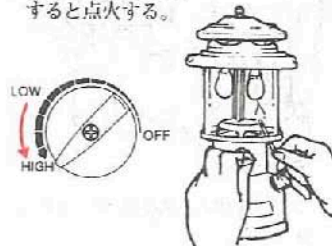


- ②燃料の出る音に変わったら、燃料バルブをOFFにもどし、約10秒間おいで生ガスをのがす。



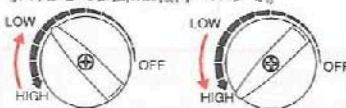
- ③マンテルの破損に注意しながら再度、充分ポンピングする。

- ④フレーム底部の穴から、柄の長いライターなどの火を入れ、燃料バルブを「HIGH」にセットすると点火する。



- ⑤点火直後、さらに充分ポンピングする。

- ⑥明るさの調節は燃料バルブで。



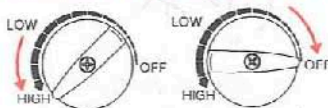
点火時の注意

△炎は上にあがるので、点火するとき、ランタンの上にかがみこまない。

△必ず、火を入れてから燃料つまみを開いてください。先に燃料つまみを開くと不完全燃焼の原因になります。

△マンテル以外から炎が出る場合は、燃料の出すぎか燃料漏れが原因。燃料バルブを「OFF」にもどし消火後、再度取扱説明書をよく読んで、正しい手順で点火操作を行う。

△正確な操作で点火しても、ついたり消えたりして安定しない場合は、燃料バルブを「OFF」と「HIGH」の間で、素早く2～3回往復させる。ジェネレーター内部のクリーニングロッドが上下し、ジェネレーター先端の小さな穴を掃除して、燃料の通りをよくし、すぐに安定し



ジェネレーター先端部

6 消火

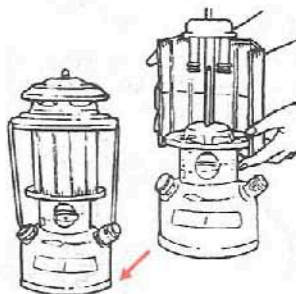
- ①燃料バルブを「OFF」にセットする。②ジェネレーター内部に残っているガスがなくなるまで燃えるが、しばらくすると消える。



7 収納・保管

△ランタン本体が完全に冷えてから、プラスチックケースに入れる。

- ①車のトランクなどで運ぶ時や、使用後に保管する場合、短期間であれば燃料を抜き取る必要はありませんが、空気圧は抜いてください。空気圧は燃料キャップを徐々に緩めると抜けます。
- ③ガラスグローブを破損して持ち運ぶ時は、ダンボールなどの厚紙をまいて、バーナー部を保護する。



- ②シーズンオフ等で長期間(半年以上)保管する場合は、燃料を完全に使いきって、タンク内を空にしてください。完全に燃料を抜く場合は別売りの「残ガス抜き取りポンプ」を使うと便利です。
- ④幼児、子供の手の届く所に保管しない。

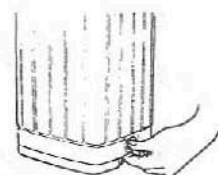
△器具を収納・保管・運搬する場合は、火気の近く、湿度が高い、高温な車内等温度が40度以上になる場所には収納・保管しないでください。

プラスチックケースの取扱方法

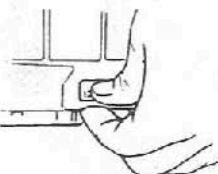
- 取り出し収納とも、両手で左右同時に行う。②ふたの凸部に、ボールナットが入るようにかぶせる。

取り出し方

- ①両手の親指を底部のロック用の爪に当て、人差し指と中指をふたの縁に添える。

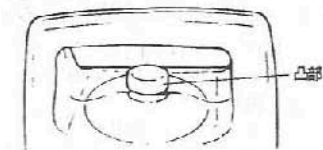
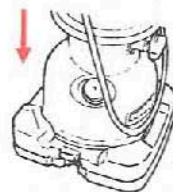


- ②ふたを外側に広げるようにして、ロックをはずす。

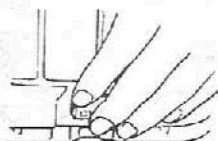


収納方法

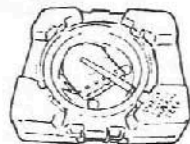
- ①ランタンを底のくぼみに、しっかりと固定する。



- ③ふたにある「PULL」部分を、底部の爪に合わせ、パチンと音がするまで内側に押しこみ、ロックする。



ケースの底部のくぼみは、マントルやジェネレーターなど、予備のパーツを収納できる。



チェックバルブ機能の点検

ポンピング操作直後に点検する。ポンプノブ先端の穴から燃料が吹きでる場合は、チェックバルブ機能不良。空気圧を抜いて修理に出す。チェックバルブの交換には、専用工具が必要。お買い求めの販売店にご依頼ください。

8メンテナンス

ジェネレーター交換の手順

点火しにくい。いつもよりくらい。「HIGH」「LOW」の調節ができなくなった。このような場合は、ジェネレーターを交換してください。

- ①燃料バルブを「OFF」にセットし、燃料キャップを緩め、タンク内の空気を抜く。
- ②ボールナットをはずす。
- ③ベンチレーターをはずす。
- ④ガラスグローブを抜きとる。

以上8頁の図を参照

- ⑤ヒートシールドをはずす。

ヒートシールド



- ⑥フレームナットをゆるめる。

フレームナット



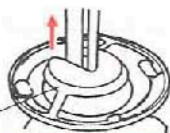
- ⑦Uクリップを取りはずす。

Uクリップ



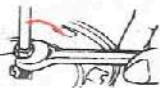
- ⑧バーナー一式を抜きとる。

バーナー式



- ⑨ジャムナットをはずす。

ジャムナット



- ⑩ジェネレーターを持ちあげ、クリーニングロッドをはずす。



- ⑪新しいジェネレーターのクリーニングロッドを、約1cm引き出しバルブ先端の穴に引っかける。



- ⑫燃料バルブを「HIGH」にしてクリーニングロッドを下げた状態にする。
- ⑬クリーニングロッドを曲げないように、ジェネレーターを下に降ろす。
- ⑭ジャムナットを、しっかり締める。
- ⑮①②の手順で組み立てて、交換完了。

△ 交換後点火操作を行い、燃料漏れがないか確認する。

ジェネレーターは消耗品です。常時、予備のジェネレーターをご用意ください。

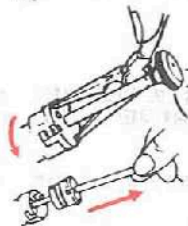
ポンプカップ交換の手順

△ ポンプカップが破損、損傷または外れたときは、ポンピングしても空気が入りません。ポンプカップを交換するか再度組立て直してください。

- ①ポンプノブを左に10回転以下回し、チェックバルブからエアーステムをはずす。



- ②ラジオペンチなどで、ポンプキャップを左にまわし、ポンプノブを抜きとる。



- ③ポンプカップを固定している、プッシュオンナットをはずし、損傷したポンプカップを取りのぞく。



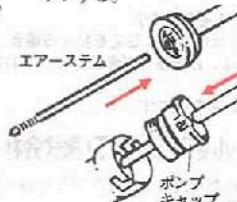
ポンプブランジャーの組立て方法

△ ポンプカップが外れてしまった場合は、ポンプキャップを外すと中にエアーステム、白いプラスチック板、ポンプカップ、プッシュオンナットがシリンダー内に残っているはずですので、それを取り出す。エアーステムは左に10回転以上回すと取れます。

ポンプキャップ、白いプラスチック板(向きに注意)、ポンプカップ、プッシュオンナットの順で組み立て、固定する。



- ④ポンプカップにリュブリカント(専用特殊オイル)をつけ、エアーステムをポンプブランジャーの中に入れ、ポンプノブをセットする。



- ⑤ポンプキャップを固定する。



- ⑥ポンプノブを右に止まるまでまわして、交換完了。



△ ②の段階で、エアーステムに曲がりがないか確認し、変形していたら交換する。

△ エアーステムが曲がっていると、ポンピング操作が固くなり、チェックバルブ破損の原因になる。

常時、ポンプリペアキットの携行をお勧めします。